

くすりのしおり

外用剤

2022年09月改訂

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

製品名：ナサニール点鼻液 0.2%

主成分：ナファレリン酢酸塩水和物 (Nafarelin acetate hydrate)

剤形：無色澄明の点鼻用液剤、（八角形容器）ピンク色

シート記載など：Gn-RH 誘導体製剤、ナサニール点鼻液 0.2%



この薬の作用と効果について

下垂体の GnRH 受容体を減少させることにより、卵巣機能を抑制します。

通常、子宮内膜症の治療、子宮筋腫の縮小や子宮筋腫に基づく過多月経・下腹痛・腰痛・貧血の改善、生殖補助医療における早発排卵の防止に用いられます。ただし、子宮筋腫の場合は、症状の原因そのものを治すものではありません。

次のような方は注意が必要な場合があります。必ず担当の医師や薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬や食べ物で、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。診断のつかない異常性器出血がある。粘膜下筋腫がある。
- ・妊娠、妊娠している可能性がある、授乳中
- ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・あなたの用法・用量は（：医療担当者記入）
- ・子宮内膜症、子宮筋腫の縮小および子宮筋腫に基づく過多月経、下腹痛、腰痛、貧血の改善：通常、成人は1回あたり片側の鼻腔に1噴霧（ナファレリンとして200 μ g）を1日2回、月経周期1～2日目より噴霧します。
生殖補助医療における早発排卵の防止：通常、1回あたり片側の鼻腔に1噴霧（ナファレリンとして200 μ g）を1日2回噴霧します。
いずれの場合も、必ず指示された使用方法に従ってください。
- ・吸収を安定にするため、使用前に鼻をかみ、鼻腔のとおりをよくしてください。
- ・生殖補助医療における早発排卵の防止に使用する場合は、この薬を使い始める前に患者さんおよびパートナーの方の検査が行われます。その結果、甲状腺機能低下、副腎機能低下、高プロラクチン血症、下垂体または視床下部腫瘍などの病気が見つかった場合、病気の治療が優先されます。
- ・子宮内膜症、子宮筋腫の縮小および子宮筋腫に基づく過多月経、下腹痛、腰痛、貧血の改善に使用する場合は、この薬を使い始める前に妊娠をしていないことが確認されます。
- ・噴霧し忘れた場合、1回とばして次の使用時間まで噴霧しないでください。絶対に2回分を一度に噴霧してはいけません。
- ・誤って多く噴霧した場合はすぐに医師または薬剤師に相談してください。
- ・医師の指示なしに、噴霧するのを止めないでください。

生活上の注意

- ・子宮筋腫の縮小および子宮筋腫に基づく過多月経、下腹痛、腰痛、貧血の改善に使用される場合、下腹痛および腰痛に対する効果は使用初期には認められないため、効果があらわれるまでは他の適切な治療が行われることがあります。
- ・子宮内膜症、子宮筋腫の縮小および子宮筋腫に基づく過多月経、下腹痛、腰痛、貧血の改善に使用する場合は、この薬を使用している間はホルモン剤によらない避妊をしてください。
この薬の使用中に、腫瘍が大きくなったり、症状の改善がみられない場合は使用が中止されます。
長期使用により、骨量の低下が見られることがあります。6ヵ月を超える継続使用は原則として行われません。また再治療を行う場合、骨量に関する検査を行うなど骨量の低下に注意しながら、慎重に使用されます。
- ・生殖補助医療における早発排卵の防止に使用する場合は、卵巣過剰刺激症候群があらわれることがあります。お腹が張る、吐き気、尿量が減る、下腹部の痛み・緊迫感、腰痛や急激な体重増加などの異常が認められた場合は、ただちに医師などに相談してください。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、ほてり、肩こり、頭痛などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・ゆううつ、全身けん怠感、食欲不振 [うつ状態]

- ・鼻血、歯ぐきの出血、皮下出血 [血小板減少]
- ・全身けん怠感、食欲不振、皮膚や白目が黄色くなる [肝機能障害、黄疸]
- ・過長月経 (過度の継続)、過多月経 (量の増加)、頻発月経 [不正出血]
- ・腹部膨満感、下腹部痛、食欲不振 [卵巣嚢胞破裂]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法 その他

- ・乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、湿気を避けて室温 (1~30℃) で保管してください。
- ・薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。廃棄方法がわからない場合は受け取った薬局や医療機関に相談してください。他の人に渡さないでください。

医療担当者記入欄

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、医療関係者向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。